

平和願い歌う「ぞうれっしゃ」

平和への願いを込めて「ぞうれっしゃがやってきました」を歌う「川口ぞうれっしゃ合唱団」(荒木紀理子代表)が、来年7月に開催する15回目の公演に向けて動き出した。これまで2年に1度の公演のたびに参加者を募集しており、今回の練習は10日から始まる。合唱団は来年が結成30周年。荒木さんは「声高に平和を叫ぶのではなく、歌うことで平和の尊さを伝えよう」と続けてきた。多くの人に参加してほしいと呼びかけている。【鈴木篤志】

川口の合唱団

「ぞうれっしゃがやってきました」が殺処分される中、各地と名古屋を結ぶ特別列車「ぞうれっしゃ」が走ったという実話を基に構成されている。合唱団は1990年に荒木さんらが結成し、翌

「川口ぞうれっしゃ合唱団」の(右から)柴山哲也さん、代表の荒木紀理子さん、柴山さんの妻祐子さん＝川口市で



来夏の公演に向け始動

年に約6000人が参加しを踏む。て初公演を開いた。当初はこの公演限りの予定だったが、参加者から惜しむ声が多く寄せられたため、公演後にいったん解散し、次回の公演前に改めて参加者を募集するというスタイルで継続してきた。初演以来、延べ約5500人が「ぞうれっしゃ」を歌ってきたという。2018年の前回は2歳から80代まで幅広い年齢層の約1700人が参加した。教員時代に仲間とミュージカル劇団を作っていたことがきっかけで初演からのメンバーとなった柴山哲也さん(61)は「2世代での参加者も増えた。2歳の時から参加している娘は22歳になりました」と話し、今回も妻祐子さん(60)とともに家族で舞台

参加者を募集

練習は10日から毎月第2、第4日曜日を基本に、JR蕨駅西口近くの川口市教育研究所芝園分室(旧芝園小学校)で来年度まで行われ、本番の公演は同19日、JR川口駅西口の総合文化センター「リア」メインホールで開催される。参加資格は特になく、住所や年齢・性別を問わず募集している。荒木さんは「地域のつながりを求めて参加する人もいる。歌うことでその輪が広がれば」と話している。問い合わせは荒木さん(048・2698・9256)へ。夜間のみ、ファクス兼用。詳細はホームページ(<http://kawa-suchizou.sakura.ne.jp>)。

死槽谷

「育児値せぬ虐待」

せていたと指摘。「育しない虐待だ」と返け児をしており、一方的に虐待して起こった事件ではない」として執

「現代の名工」県内から5人厚生労働省が、各産

事し、金属板を曲げ、たたくなどして自在に形を変え、あらゆる形状の屋根に合う優れた技能を有している。越谷市。



久喜市の提燈祭り「天王様」の山車。1台が国民祭典に出演する＝久喜市で18年7月

国民祭典に久喜の山車

きょう皇居前広場天皇陛下の即位を祝う東京・皇居前広場で9日に開かれる国民祭典に、久喜市の夏の風物詩「提燈祭り」の山車1台が出演する。出演するのは市内10地区のうち本吉祭典保存会の山車。第1部の

労省調べ、敬称略

◆池内俊雄(いけうち・としお) 50歳。電気通信機械器具検査工。長年にわたり鉄道